

KPO上海レポート 2017.10

KPO上海事務所／上海贛遊(伊功)广告有限公司
Tel: +86-21-6467-0487 Fax: +86-21-6473-6872
E-mail: kuramoto@sh163.net

1. 訪日旅行動向

(総括)

国慶節と中秋節が重なり史上初の8連休になった。例年より休みやすいこともあり、欧米ツアーは人気で、前年比で150-300%増加、早い人は9月28日に出発している。人気目的先は米国、カナダ、豪州。日本や東南アジアなど短期ツアーは10月2日が出発のピークで、人気目的先はタイ、日本、インドネシアだった。

韓国や台湾が敬遠された関係もあり、日本は短期ツアーの第1選択肢になった。元高円安やAlipay、銀聯カードの優遇措置もあり、中国人がショッピングを楽しめる環境が昨年より整備されてきているのも大きな人気要因になっている。

(上海地区)

例年より長い休みになったこともあり、例年に比較すると欧米など長期ツアーが人気だった。短期ツアーではタイ、日本、ベトナムが人気を集めた。

訪日旅行はタイに続いて2位。特に海外旅行の41%を占める90後(1990年以降生まれの世代)には日本は圧倒的な人気になっている。

(広東地区)

国慶節休みは長期ツアーが人気で、目的先としてはフランス、スペイン、イタリア、ロシア、スイス それからアメリカの順だった。短期ツアーはタイ、日本、インドネシアがTOP3。

国慶節休みが終わっても訪日旅行は根強い人気、特に紅葉鑑賞を組み込んだツアーは特に集客が好調だ。

◆ 10月日本送客数統計

江蘇省:蘇州青年 330人、無錫中旅 500人、中国国旅(江蘇)約 480人

上海市:上海錦江 1100人、上海中旅 120人、春秋国旅 7,000人、上航旅遊 400人

上海携程 2,400人、(FIT72,00人)、上海中信 200人、個人ビザ(800)、

浙江省:浙江中青旅 600人、浙江美景 800人、浙江光大星辰 2,300人、杭州中旅 600人

広東省:広之旅 2,200人、広東国旅 250人、広東中旅 300人、

南湖国旅 1,500人、深圳国旅 1,500人、シンセン口岸 80人、港中旅 80人

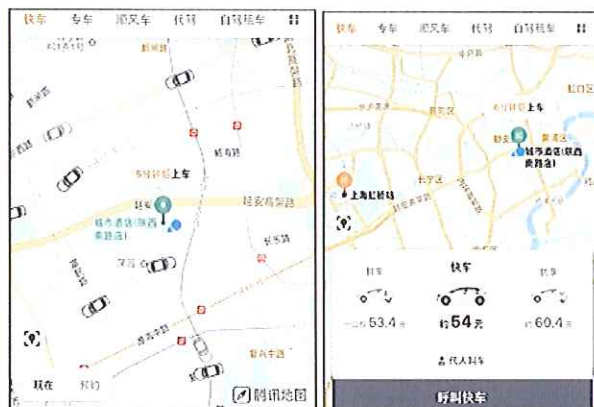
滴滴出行、日本上陸



10月30日の日経新聞朝刊1面のトップに「中国配車アプリ、日本進出」という記事がありました。中国の配車アプリが来春日本でサービスを始めるという内容です。このアプリは「滴滴出行」で、中国版 UBER。タクシーではなく、一般車両が目的地まで運んでくれる非常に便利なシステムなんです。ただ残念ながら、日本で提携する相手はタクシー会社で、一般車両は対象外になります。

「滴滴出行」、携帯でアプリを開くと、地図上に自分の位置と周辺にいる登録車両、何分ぐらいで到着するかが表示されます。それから目的先を打ち込めば、料金が提示されますので、問題なければ「呼叫快車」をクリックすれば、OK。すぐに予約できた車の関連情報が送られて来ます。料金は

モバイル決済なので、現金で払う必要はありません。



タクシーと比較すると料金は若干ながら高めです。中国の配車 APP は迂余曲折があって、最終的にはこの「滴滴出行」一社に集約されたこともあり、

マーケットを独占しているためかと考えられます。

この配車アプリに登録できる車とドライバーには条件があります。車は7万元以上で、使用年数は8年未満。ドライバーの年齢は男性22歳から55歳、女性は22歳から50歳。マニュアル免許を持ち、運転歴は3年以上。この条件を満たした人は審査を経て、登録することができます。

上海で何度か乗った経験で言うと、タクシーより運転が丁寧で、車内も綺麗、非常に快適。ただドライバーはタクシーより道を知らないのが、常にナビを見ながらの運転でした。大きい道、大きい道ばかりを走るの、やたら時間がかかったという感想です。ただ最初に提示された料金は変わりません。

「滴滴出行」、来春の上陸はタクシー最大手・第一交通産業との連携という形でスタートします。アメリカの UBER も日本ではサービスがまだ制限されていますので、中国最大手の登場で、日本の規制が緩和されるか注目されます。